

様式第2号(第7条関係)

会議の開催結果

1	会議の名称	さいたま市総合振興計画審議会第2部会（第5回）
2	会議の開催日時	平成25年7月19日（金） 10時00分から12時05分まで
3	会議の開催場所	市民会館うらわ 101集会室
4	出席者名	審議会委員：渋谷治美部会長、大久保秀子副部会長、 浅輪田鶴子委員、新井森夫委員、久世晴雅委員、鶴 見清一委員、徳山晴美委員、中崎啓子委員、根本稔 巳委員、三宅貫三委員、宮本直美委員 事務局：江口明男、松井雅之、小島豪彦、松尾真介、 富田昌洋、南友和、池田宜弘、鈴木慶一
5	議題及び公開又は非 公開の別	議題 ・分野別計画（原案）について ・（仮称）重点戦略について ・都市づくりの進め方（素案）について ・区の将来像（素案）について ・その他 公開又は非公開の別 公開
6	非公開の理由	—
7	傍聴者の数	2人
8	審議した内容	別紙、議事概要のとおり
9	問合せ先	政策局政策企画部企画調整課 電話番号 048-829-1035
10	その他	

さいたま市総合振興計画審議会 第2部会（第5回） 議事概要

これまでの検討結果を踏まえ分野別計画（原案）について確認するとともに、（仮称）重点戦略、都市づくりの進め方（素案）、区の将来像（素案）について審議しました。

議題（1）分野別計画（原案）について

事務局から、資料1-1及び1-2に基づき、分野別計画原案の修正箇所の説明とともに、資料1-3、1-4、1-5に基づき、成果目標及び（仮称）皆さんも取り組んでみませんか？の取扱について、調整部会での検討結果の報告がありました。

【主な意見】

○成果目標について

- ・分野別計画から完全に削除してしまうと、例えば待機児童数など、行政の取組を縛るものがなくなってしまうように感じられる。客観的な数字を入れ込んでいけないか。

○分野別計画（原案）健康・福祉について

- ・2ページ（3）「放課後児童クラブ」について、サービス内容の充実という視点が抜けているので、検討すべきである。
- ・6ページに関連して、知的障害の方を中心にした和太鼓の演奏グループがあるが、かつて施設職員だった方が一人で切り盛りしておられる。そのような活動を、色々な方が支援していくようなシステムがつかれないか。
- ・上記について、分野別計画（原案）健康・福祉分野の施策3と、教育・文化・スポーツ分野の施策4を関連づけた施策を検討できないか。
- ・9ページ、皆さんも一緒に取り組んでみませんか？の施策4にある「1日1時間の軽い運動」は、「適度な運動」という表現でよい。

○分野別計画（原案）教育・文化・スポーツについて

- ・2ページ（1）に「魅力ある教員」とあるが、「力量ある質の高い教員」など、より適切な表現に変更したらどうか。
- ・8ページ（2）に「促進」とあるが、助成などにより積極的に「支援」という記述が欲しい。例えば横浜市のアートフェスティバルなどを参考に、市による文化・芸術振興のあり方をもう一度整理したらどうか。

議題（2）（仮称）重点戦略について

事務局から、資料2に基づき、（仮称）重点戦略について説明があり、審議しました。

【主な意見】

○戦略1について

- ・戦略1が子ども、2が高齢者を対象としているものとする、例えば青少年など、その中間層に対する施策が抜けてしまう。青少年、若者、30歳代から40歳代

の人たちが楽しいと感じられるさいたま市であればよいと思う。

- ・タイトルを「次代を担う人財を育む都市さいたま～豊かな教育ノウハウを活かして子育てに魅力を感じるまち」などとし、戦略1は子どもから青少年まで、幅広い層を対象とするものと位置づけたらどうか。
- ・案2の「次代を担う人財を育む都市」の“財”の字はこれでいいのか、検討をして欲しい。
- ・「子育て」という語に違和感があるので、タイトルは案2を中心に考えたらどうか。
- ・幅広い層を対象とすべきという意見が出ているが、やはり、子育て支援に特化すべきだと思う。「次代を担う人財育成」では対象とする範囲が広くなり、ポイントがぼやけてしまう。
- ・教員、保育士たちが「さいたま市で働きたい」と感じるような、現場を支えているスタッフが心に余裕を持てるような施策があるとよい。
- ・家庭教育の支援という視点が欠けているように思う。家庭教育の支援は、「父親の子育てへの参加促進」とは異なる。
- ・「父親の子育てへの参加促進」の記述については、違和感がある。
- ・家庭は個人のプライバシーの領域であり、行政計画に明記することはやりすぎだと思う。
- ・「保育所は増加しているものの」とあるが、「保育所・放課後児童クラブは増加しているものの」としたらどうか。

○戦略2について

- ・「ゴールドシアターシティ」というタイトルに違和感がある。特別なことができなくとも、年齢相応に、自分の知識と経験が生かせればよいと思う。
- ・案1のサブタイトル「地域に戻ってくる」は不要であり、単に「地域で暮らす高齢者」でよい。
- ・タイトルレベルに、「知識と経験を還元する」といった表現があってもよい。
- ・「健康づくり」と同様に、「高齢者の活躍によるまちの活性化」の中にもボランティアに関連する記述があってもよい。
- ・「各種健康診査・検診の受診促進」は中高年に対し必要な施策であるので、再検討が必要である。
- ・「自転車への利用転換」とあるが、自転車による交通事故が問題となっている中、進めていいものかと思う。

○戦略3～5及び戦略全体について

- ・特段の意図があれば別だが、全体的にカタカナ用語が多いように思うので、高齢者にも容易に理解できる言葉で表現すべきだ。
- ・戦略3については、単に企業を誘致し直すではなく、もう一步踏み込んで、地域の産業資源を発掘し、身近なところで高齢者や女性が働ける環境をつくる、とい

った視点が必要だと思う。

- ・戦略5のタイトルは、「安心コミュニティ」ではなく、より客観的に「安全コミュニティ」としたらどうか。

議題（3）都市づくりの進め方（素案）について

事務局から、資料3に基づき、都市づくりの進め方（素案）について説明があり、審議しました。

【主な意見】

- ・「都市づくりの進め方」というタイトルについて、再検討してはどうか。カタカナ用語が多いパートもあるので、一貫性がほしい。
- ・2ページ（4）に「協働」とある。協働というと格好が良いが、市民が一生懸命になっても、行政に協働の成果を生かす姿勢がなければ無意味である。
- ・4ページ（3）に「挑戦する」とあるが、何に挑戦するのか不明確である。また、同じ箇所「市民から信頼される」とあるが、窓口の職員は一生懸命対応してくれているが、管理職の職員も原点に立ち返ってみてほしい。
- ・市民からの信頼を高めるためには、組織を縦横につなげ“ここに行けば対応してくれる”ということをわかりやすくすればよい。
- ・この計画には、評価という視点が抜けていないか。色々な評価の仕組みがあるのだろうが、より現場に近いところで評価する仕組みがあればよい。
- ・市民の実感と行政の評価結果が乖離しているケースがある。点数を上げるためだけの評価はやめて欲しい。
- ・5ページについては、政令指定都市としてのメリットを生かすべく、今後どのようにして区行政を強固なものとしていくかが課題となる。

議題（4）区の将来像（素案）について

事務局から、資料4-1及び4-2に基づき、「各区の将来像」の策定過程等の説明とともに、調整部会での検討結果についても説明があり、審議方法等について検討しました。

【主な意見】

- ・もちろん各区の特性があってよいのだが、施設の老朽化が進んでいたり、主要駅のバリアフリー化が遅れている区もあるので、改修を進めていくべきではないか。
- ・区の並び順の根拠を教えて欲しい。五十音順など、一般市民からみてわかりやすい順序とすることも検討したらどうか。

その他

事務局から、第2回総会の日程について連絡しました。

○8月5日（月）午後2時から 浦和コミュニティセンター 第15集会室

以上